鎌倉の温古堂
創業弘化四年
仏壇・仏具・御宮
神具・香・香炉
フーフでナムナム
☎〇四六七(22)七六七六

11月1日号
2022年(令和4年)
第524号
毎月1日発行
(一部税込み110円)

朝日 鎌倉朝日

朝日新聞の姉妹紙
http://kamakura-asahi.com
©発行所 鎌倉朝日新聞社☎0467-24-8553 FAX 23-1205
〒248-0007 鎌倉市大町2丁目8番13号2-202

お宮参り・七五三の会食は
鎌倉峰本
八幡宮前・小町通り・十二所神社前
本店 電話 0467-22-4431

源頼朝父・義朝の屋敷跡か
逗子の桐ケ谷歴史庭園

逗子市沼間の桐ケ谷まりさんが、敷地内を整備し、「桐ケ谷歴史庭園」の名称で歴史史料館とバラ園をつくった。今年5月から公開している。

源頼朝の父、義朝が邸を構えた沼浜亭(沼浜城)は、神武寺への登り口左にある桐ケ谷家(屋号は堀の内)周辺の「堀の内」辺といわれる。1202年(建仁2)、北条政子が義朝の夢告と称し沼浜亭は解体され、鎌倉の寿福寺に移築されたと『吾妻鏡』にある。

桐ケ谷さんは、文化財を公開して見てもらい、安らぎの場にしてもらえればと5年ほど前から構想を練ってきた。2019年に約千坪の敷地にある古い家を解体し、資料館をつくり、カワセミが飛び交う田越川支流の小川に囲まれているので「かわせみの家」と名付けた。

桐ケ谷歴史庭園「かわせみの家」の離れの奥の茶箱から見つかった漆器のお椀や皿、特大の木製のお櫃などのほか、古い文書、日蓮曼荼羅(享保17)、家紋入りのかみしもなどが展示されている。

展示室は30畳(50㎡)ほどの広さで、敷地内のケヤキの切株から作ったテーブルが置かれ、古い家の離れの奥の茶箱から見つかった漆器のお椀や皿、特大の木製のお櫃などのほか、古い文書、日蓮曼荼羅(享保17)、家紋入りのかみしもなどが展示されている。

庭には、竹林、サクラやウメ、クリやユズなどの大木に加え、100本以上のバラを植え、新たにローズガーデンをつくった。

裏山に、1660年(万治3)に建立された桐ケ谷家の墓地と、「先祖やぐら」と呼ばれる奈良時代の横穴古墳(逗子市指定重要文化財・整備中)があり、土師器・須恵器類が出土している。

火水木曜日午後1時半～4時半(7月25日～8月15日、12月25日～1月15日除く)。入場無料。逗子市沼間2―23―24 東逗子駅から徒歩9分。

パッチワークとアジアの刺繍
アメリーさんの展覧会

フランス生まれのキルト作家・林アメリーさんの「パッチワークとアジアの刺繍」展が10月22日から1月22日まで北鎌倉古民家ミュージアムで開かれている。

クリスチャン・ディオールなどの裁縫師として活躍したアメリーさんは、1963年、ギ・ラロッシュの日本橋三越アトリエ責任者として来日し、オートクチュールの技術を戦後の日本で初めて指導した。建築家・林寛治氏と結婚後は、退職しアトリエ活動を続けている。日本の着物に出合い、着物地で服をつくる一方で、パッチワーク作品を発表。2019年に同館で着物を使った作品展を開いている。

今回はパッチワークのほか、50年ほど前からアメリーさんが収集しているアジアの刺繍のコレクションを展示する。

午前10時～午後4時。500円。同館☎046 7・25・5641

鎌倉 みほとけ紀行 (126)
青梅聖天社・歓喜天立像

題字は建長寺派管長 吉田 正道

文 永井宗直
写真 原田 寛

しっとりと霧雨降る中、青梅聖天社へお参りしてきました。

鶴岡八幡宮西側出口から道路を渡り、小袋坂旧道(巨福呂坂)を向かうと坂の途中に青梅聖天社があります。苔むした階段にひっそりと建つ社、緑に包まれた景色がとても鮮やかに見えました。

社について新編鎌倉志に「青梅聖天は、雪下より小袋坂へ登る左に小坂あり。巖窟の内に聖天の宮有。故に坂を聖天坂と云ふ。是を青梅の聖天と云事は、俗に伝ふ、鎌倉の将軍、一日疾劇しふして、時ならず青梅を望まる。諸所を尋ぬるに、此宮の前に俄に青梅実のる。是を将軍に奉て、終に疾愈ぬ。故に名くと」とあります。将軍実朝公(源頼朝公説もあり)が患い、季節外れの梅を所望されたところ、この社の樹に梅がなり、にわかに病が癒えたことから名付けられたそうです。

そして、この社には双身歓喜天がお祀りされています。(現在は鎌倉国宝館に寄託所蔵)

それにしても目を引く艶っぽいお姿の像です。身体は人間ですが象面二体は互いに腰に両手をまわして抱擁し合っています。インドの古代神話に登場する鬼神の一種であったものが、仏教に取り入れられ、仏教を守護し、障害を除去し、諸願を成就させてくれる力を持つことから崇められるようになったといいます。地域では夫婦和合の利益や峠を往来する人々の安全を願っておられるそうです。将軍実朝公を助けた青い梅、霊験深い社が往時を偲びます。

寄木造、彫眼、黒漆塗。像高男天74・6㎝、女天74・1㎝、南北朝時代。巨福呂坂町内会所有。鎌倉国宝館で近々展示予定。

HANPAもろいそで上野憲一展

湘南で創作活動を行っている洋画家・上野憲一さんが三浦のギャラリー「HANPAもろいそ」で個展を開く。

このギャラリーは、美術館のない街・三浦で市民の憩いの空間となることを目指し、元保養所の5階建ての建物をリニューアルして昨年11月にオープンした。窓から小さな湾が見渡せる。

「荘洋」油彩P100号

上野さんのこの会場での個展は2回目。"silent but beautiful"の題で、静けさの中に美しさや強さを感じさせる作品を50点ほど展示する。

11月2日～13日午前10時～午後4時。7・8日休館。入場無料。三浦市三崎町諸磯1879―3 One's place ☎090・6948・2747

鎌倉の年中行事 11月

▼宝物風入 3～5日 円覚寺・建長寺。
▼国宝舎利殿特別公開 3～5日円覚寺。
▼北条重時墓前祭 3日極楽寺。(3面に詳細)
▼丸山稲荷社火焚祭 8日14時、鶴岡八幡宮境内の丸山稲荷社。五穀豊穣、無病息災祈願。鎌倉神楽奉納。
▼写真供養感謝祭 12日11～14時、浄智寺。
▼七五三祈祷祭 15日、女子7歳「帯解き」、男子5歳「袴着」、男女3歳「髪置き」息災と幸福祈願。
▼新嘗祭 23日10時、鶴岡八幡宮。収穫の感謝と国の弥栄を祈念。
▼時頼忌俳句大会 23日関係者のみ。建長寺。
▼一ツ火法要 27日17時開場、整理券配布。遊行寺。灯火を燈し仏法甦り念仏祈念。

プロムナード

食欲・読書・スポーツ・芸術・行楽など、秋は多岐にわたって楽しめる季節です▼先日、子どもの運動会が開かれました。昨年まではコロナ禍の影響で「各家庭から大人2人まで」の制限があり、兄弟すら応援に駆けつけることができない状況でした▼しかし、今年は制限が緩和されたことで兄弟以外の親族まで観戦することができました▼昨年までの写真や動画での報告と比べて、現地の空気に触れることは思い出としても、最良であると感じました▼鎌倉市内も大渋滞になるほど観光客が戻ってきています▼実際に足を運んでもらうことでの体験や体感を上回る感動はないのだから…と思いつつ、大渋滞に巻き込まれながら、不思議な感慨にひたっています。(N)

鎌倉石屋
梅花はんぺん
井上蒲鉾店
http://www.inouekamaboko.co.jp/

好評販売中
湘南しらすチップ

株式会社 大森商店
o.m.s.souvenir.works
☎0467-22-2626
http://www.e-omori.com/

大箭晃義 写真集

最新刊 11月1日発売
心に残る
鎌倉近郊の名刹
オールカラー・270頁
四六判・上製
定価 3,200円＋税

苔に光る
鎌倉の石仏
定価 2,000円＋税

相州鎌倉
椿百景
定価 3,200円＋税
発行：銀の鈴社 ☎0467-61-1930

明治37年創立
学校法人 鎌倉女学院
中学校・高等学校
心身ともに健康で
国際性豊かな人間教育
〒248-0014 鎌倉市由比ガ浜2丁目10番4号
電話(0467)25-2100(代表)